

授業改善書

科目名	国際経済論
担当者	小原篤次

授業の概要

国際経済論は、国々間の経済関係や、国際経済の枠組みのなかでとらえた各国経済の現象に関する科目である。

前半は、国際収支の仕組み、外国為替のメカニズム、経済発展、国際貿易および経済成長の理論の基礎、後半は、国際貿易・海外直接投資、産業集積、社会関係資本・社会ネットワーク、経済協力・政府開発援助・SDGs など経済発展の諸要因を講義する。

授業の問題点

国際経済論と欧米経済事情を担当。国際経済論の履修は1年生から可能、他方、欧米経済事情は3年生が履修した。国際経済論は、確立した理論があるため、欧米経済事情より難易度が高いものとなった可能性がある。さらに、マイクロソフト FORMS や TEAMS などパソコン操作、大学などで利用環境についての質問が相次ぎ、1年生が慣れておらず、戸惑いがみられた。当初、国際経済論履修の1年生は欧米経済事情の2科目の回答を行っていた。15回のクイズ回答数の中央値はともに13であるが、平均値は11.1回と11.7回、履修者のうち10回以上の回答者が74.7%と82.6%と欧米経済事情の回答が若干、国際経済論を上回っている。懸念された点は回答状況でも示唆されていた。

学生の授業満足度

授業の満足度の1は、国際経済論が3.79、欧米経済事情が4.75、平均点が4.41。

授業の満足度の2は、国際経済論が4.05、欧米経済事情が4.63、平均点が4.31。

授業改善の課題と方策

欧米経済事情の評価の大半は平均点を上回っており、授業資料やクイズなどの難易度の調整を図りたい。

短い行数の連絡を繰り返すことで、パソコンの問題は解決できるものだろう。パソコンの問題の多くは学生がスマホでアクセスしたことで起きたものが大半だった。

いずれにしても、来年度、対面で改善できることも少なくないだろう。

その他